

東海大学付属望星高等学校

同窓会々々報

第24号

平成十四年二月発行
東海大学付属望星高等学校同窓会
東京都渋谷区富ヶ谷2-10-11
Tel 03(3467)8111
発行人 下倉良次



希望と生命

校長 成田 史

昨年は新しい世紀の始まりの年でした。希望に満ちた年であって欲しいと、世界中で新しい時代に期待を込めて新年をお祝した記憶があります。

しかし、現実は今全く予想もなかった恐ろしい形の戦争が始まってしまいました。私は、人類は優れた英知を結集して、必ずこの危機を乗り越えるものと信じています。

しかし、暮れには皇室に愛子内親王が誕生し、日本国民のみならず、世界中からお祝いのメッセージが寄せられました。新しい生命への慈しみと、未来への幸せを世界中の人々が期待している現れであると思いました。

望星高等学校も、校舎のリニューアルも除々に進行し、新しい、未来志向型の学校にすべく教職員みんなががんばってくれています。高い情報技術は、我々の生活にも、教育にも押し寄せ、それらの活用なしでは未来を語れなくなつて参りました。しかし、このような時代であるからこそ、自然と人間の調和を常に念頭に置いて生きてゆかねばならないと思います。

じつと自然を見直し、そこに何があるかを観察し、これからの生き方の参考にしたいと思ひ、次のような駄文を本校の情報誌「すばる」に掲載しました。この文の心だけでも読んでいただけたら幸甚です。

落葉

成田 史

細く長い坂道を

幾重にも重なつた落ち葉が

柔らかな感触を残して

足下を包んでくれる

落葉一枚一枚が

陽の光や雨や霧から

命のしずくを吸い取り

樹木に成長するうれしさと

生きる喜びを与えてきた

そして今は

小さな虫たちの命を育み

足下を力強く

弾みをつけるように

前へ進みなさいと

おしあげてくれる

命の連鎖

生命の不思議さ

細く長い道は続く

第三十九回

同窓会の御案内

中年を過ぎた者の感傷でしょうか、春が去り夏が来るしるしのような藤の花に、そこはかたない哀愁を感じる今日この頃です。

学校の装いも新たになり、先生も生徒も若返り、活気に溢れています。見学を兼ねて、同窓会に出掛けてみませんか？

豪華な景品も揃え心からお待ちしています。

尚、ご出席できない方も、ハガキで近況をご一報下さい。

記

一、日時 平成十四年六月二日(日)

午後一時より総会

午後二時より懇親会

二、場所

東海大学付属望星高等学校

総会 望星高校二階教室

懇親会 東海大学4号館

2F学食談話室

三、会費

今年度卒業生 二千元

御夫婦での参加 五千元

和田武文君が 居眠り運転の犠牲に



同窓会会長
下倉 良次

「去年の九月、同窓会に一通の手紙が来ました。第二十三期卒業の和田武文の母で御座います」と書き出している手紙は、次のような内容でした。

「去る平成十三年七月二十七日勤務先からの帰途、千葉市花見川区幕張二・五・一下り高速度十六・一K付近で、居眠り運転と供述した二〇屯トラックが乗用車に追突、トラックは更に追い越し車線に渋滞し、停車していた車四台に追突、和田武文だけが車炎上、焼殺されてしまいました。二〇屯トラックと最初に追突された乗用車も炎上しましたが、犯人と最初の車の方は無事でした。」

後日お母様に送って頂いた新聞(朝日新聞二十七日夕刊)によると、二十七日午前四時二〇分ごろ千葉市花見川区の京葉道路下り車線で、大型トラックが左車線を走行中、前を走っていた乗用車に追突した。乗用車は右車線に押し出されて前方のトラックに追突し炎上した。大型トラックはさらに前方に進み、別の事故の影響で停車していた軽乗用車(和田君の車)に追突。軽乗用車を巻き込んだまま前の乗用車にぶつかった。衝撃で、軽乗用

車と大型トラックが相次いで火を噴いた。炎上した軽乗用車を運転していた男性が車内に閉じこめられ、死亡。大型トラックの運転車は調べに対し「居眠り運転をしていた」と話している。とあり、現場の写真が載っています。お母様によりますと「和田武文は一才と十ヶ月で父を失い、望星高校に転校してまで私との生計の為働きづめ、ようやく自分の将来や結婚を考えるユトリが出てきた矢先」の事故でした。

「私を助けて一生懸命に生きてきたのに、無念で無念で悲しさと怒りが日増しにつつてまいります。(中略)どうか先生方、在学中の皆様は事故を起こさぬ事も大事ですが、巻き込まれると言う事も頭に入れて、日、一日、一日を大事にお過ごし程、心から念じております事、お伝えくださいませ。在学中は本当にお世話になりました。有難う御座いました」「会費を気にしていましたが、そろそろ学校に行ってみたいなあと言っていた矢先でした。少しですが武文の気持として同封します。会費の一部にあてていただけると武文も喜ぶと思います」と金一万円を同封してありました。

この手紙は成田校長先生をはじめ池淵副校長、担任だった高橋先生、同窓会役員で拜読しました。一様に「可愛そう」と言うより腹立たしく思ったことと察します。何の落度もない和田君が居眠り運転をした人の為に犠牲になってしまふなんて・・・。警察庁の発表では昨年の交通事故による死亡者は約九千名とのこと。記憶に新しい同時多発テロ事件での犠牲者は

三千人と言われています。昨年一年でその三倍の人達が交通事故で尊い命を失っているのです。被害者になるか、ならないかはその人の運、不運に左右されることがありますが、加害者にならないことは皆さんの心がけ、注意次第で出来ることです。自分の命を守ることも他人の命を守ることに繋がると思っています。スピードの出し過ぎ、わき見運転、居眠り運転、飲酒運転等は誰もが自覚していれば守れることです。また「シートベルトを着用することで自分の命が守られる」と警察署は

東海大学高等学校 連合同窓会に参加して



副会長
寺林 勝実

房総の風爽やかな千葉県、二〇〇一年度第二十六回東海大学高等学校連合同窓会が、十月六日、七日両日に開催されました。

今回の主催校は、市原市能満の望洋高等学校同窓会と、浦安市東野の浦安高等学校同窓会がその役を担われました。参加校は十一校約六十余名の各校役員等の参加が有り、我、望星高校同窓会からは会長を始め、副会長、事務局長等八名が参加しました。

連合同窓会の内容については例年「同窓会会報」で紹介していますが、初日は会長会議から始まり記念撮影、全体総会へと続き、今

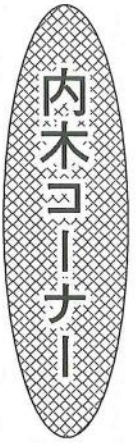
指導していますが、和田君はシートベルトを着用していた為に脱出することができず、無残に尊い命を失ったのです。シートベルトの着用義務にも問題がありそうですが……。車を運転する皆さん、和田君のような犠牲者を絶対に出さない為に、くれぐれも安全な運転を心がけてください。

和田武文君のご冥福を祈ります。

回の総会では昨今の社会情勢である少子化問題に伴う学園生の減少、不況によるリストラと雇用の問題等正に、学園全体が意思の疎通を必要とされる時、連合同窓会もまたその一翼を担うための話し合いが熱く交わされました。

引き続き各校役員等の紹介、近況報告が有り我校は、二〇〇〇年度から通信制コースから「放送教育コース」に、単位制コースは「平日教育コース」にと変更され、技能連携教育コースを併せて、三コースの教育コースとなり春、秋の二学期制も報告されました。

この後、宿泊先である「小湊ホテル三日月」に移動して、懇親会が催され、翌日の観光では「鴨川シーワールド」で爽やかな房総を満悦して全予定を締めくくられます。しかし、何と言っても連合同窓会のメイン



望星事始

(ぼっせいとはじめ)



名誉校長

内木 文英

その日の感動を忘れることはできない。それは今から四十三年前の昭和三十四年六月七日のことだ。それが望星高校の最初のスクーリングの日だったのである。

「望星」という名前がついたのは四年後の昭和三十八年からで、当時は東海大学付属高等学校通信教育部と言った。部長が東海大学文学部長だった宮本延人教授、次長はこの学校の開校業務をまかされていた、東海大学付属高等学校(全日制)校務主任であった私だった。私は三十四歳。日本ではもちろん、世界でも初めてという放送を利用した高等学校が開校するのだ。私だけでなく、宮本部長、北島万次教諭、上山夔教諭、事務の山里玲子さんまで皆興奮していた。

学校認可の仕事はたいへんだった。生徒に授業放送を聞かせ、レポートを書かせ、スクーリングに出席させ、試験をして単位を認定する。その仕組みが私たちにははっきりわかっていなかった。認可する立場にある東京都にもよく理解できなかったようだ。私学

審議会の会長をしていた児玉九十先生(明星学苑理事長・故人)が東海大学の創設者である松前重義先生と旧知の間柄で、その児玉先生の力もあって、年度の終わる最後の日、昭和三十四年三月三十一日に学校設置認可がようやくおりたのである。

六月一日に授業放送開始、六月七日に最初のスクーリング(面接授業)実施が決まっていた。履修年限五年以上ということであった(翌年四年以上と改訂)。

新聞広告をしたり、会社をまわって歩いたり、駅に募集のポスターをはったりした。応募者は三十数名、その生徒たちがどういう生徒かはっきりしなかった。十代の生徒は数名、三十代が中心で、七十歳の生徒もいた。私たちがまったく知らない学校が始まるうとしている。どういうことになるかわからないが、精一杯やってみよう、と考えていた。

学校工場で造られた特別の受信機を、北島上山の両先生が生徒の家に届けてもらった。そのスクーリングの記録が「会報」第二号に次のように書かれている。

「第一回スクーリングは六月七日午前十時より本校で行われた(代々木校舎一号館三階大教室)。生徒諸君の出席は三十一名、先生の方は宮本通信教育部長をはじめ、英語の荒牧先生、大沢先生、数学の渡辺先生、和田先生、国語の岩田先生、村瀬先生、内木先生、上山先生、社会の星先生、北島先生、山里先生であった。

午前十時に宮本先生の挨拶をもってスクーリングが始まり、その次に、内木先生を中心にしてホームルームが行われた。ホームルー

は全国からの仲間が、各部屋ごとに集い再会を祝しあい、夜が白むまで語りあう本音の話し合いで、連帯を深める最高の夜なのです。

今回の連合同窓会に参加して、その内容の一部から私なりに思った事は、各校ごとの諸事情から会長の新旧交代がある時、長年連合同窓会に貢献して来た人を仲間として、送り難く去り難い瞬間であります。

貢献と逸材とを考える時、オブザーバーあるいは名誉会長として、連合会に引き続き貢献して頂く事こそ、ベストと考えるのは私ばかりでしょうか。



ムでは生徒諸君の自己紹介(氏名、職業、出身地など)および先生の自己紹介を行った。ついで各教科のスクーリングに入り……(以下略)

三十一人の生徒の半数以上が私より年上だった。弟に付き添われて登校した障害者もいた。大病院の婦長をつとめる看護婦さんもいた。工場で働いている人、会社員、商店につとめる人、さまざまだった。生徒の前に立って何をどうしゃべったか覚えていないが、これが俺の生徒たちだ、と思った。私の話す言葉が吸い取られていくのだ。

出合いはドラマだと言われるが、このドラマチックな生徒との出合いが、私の人生を変えてしまった。それから私はほんとうの学校の先生になったような気がする。



「総会に参加して、私の心に過ったこと」



二十七期生
山口 淳子

平成十三年六月三日(日)梅雨目前に才三十八回同窓会が開催された。今年の会場は久々に東海大学才二工学部校舎内の学生会館(学食)。懇親会は最近内装工事が施されたテラスのある明るい会場である。総会の方は学食の隣にある会議室。ここはつい先頃まで大学図書館があった所だ。

当日の出席者は決して多くはなかったが、その分和気藹々とした雰囲気の中で先生やクラスメイト達とゆったり話すことができ、時間がゆっくりと過ぎて行くような感覚があった。

同日、望星高校の校舎(五号館)では学力テストが実施されており、出校されていた先生方がテスト後に会場まで足を運んで下さった。勿論今回も内木名誉校長、成田校長とお二人揃ってのご出席とあって会場が華やいだ。内木先生は少し腰を痛めていらしたようだが、いつもと変わらぬ様子でご挨拶下さった。その中では才二十三号の同窓会会報に「諸葛孔明と肉饅頭?」という興味深い小論文を寄稿された二十二期生の貫井正氏についても話され、在校中の思い出や氏の活躍が如何に優秀で名誉なことであるかなどを詳しくお話し下さった。(勿論内木先生は現在元氣を取り

戻されて、お好きな御酒も美味しく召し上がっている様子である)

内木先生のご挨拶を筆頭に成田先生は無言村田元校長、池淵副校長等々と続き場が和む内に恒例の「ビンゴゲーム」が始まった。今年を担当者のご苦心で殆どハズレなしのゲーム。これには年令、性別、先生、卒業生の区別なく皆重心に返って目を輝かせた。

一日先生方や同窓生達とこうして時間を共有する事ができ、自分を心から開放できる場を持っている事にふっと幸福感が過るそんな今年の私の同窓会であった。

年に一度懐かしい母校に足を運び、恩師や同窓生達と当時の気持ちに返ってもうひとつ思い出を創る、そんな休日の過ごし方もまた一興ではないだろうか。

最後に、貴重な日曜日(休日)に長い時間ご出席下さった先生方、本当にいつもありがとうございます。私達卒業生にとってはとても心暖まる良い休日でした。



望星ゴルフ会

永吉氏(五期生)が優勝

平成十三年望星ゴルフ会は十二月六日(木)に千葉県市原市にある柿ノ木台カントリークラブで開催しました。綺麗にまとめられたパブリックコースです。

当日の天気予報は悪く朝から雨が降り、参加者も六名とチョット寂しい集まりとなりました。仙波先生、下倉・永吉(五期生)・漆谷(六期生)・長南(七期生)の各氏と初参加の大塚由紀子さん(十一期生)で、十時にスタートしました。

途中から雨も上がり午後は傘はいりませんでした。

成績は新ペリア方式でハンディキャップを決定した結果、永吉氏が優勝(ネット七四、〇)第二位は仙波先生(同七五、六)でした。永吉氏は「最近参加しているコンペで連続して優勝している」と言うことでした。

表彰式と反省会は市原市内の蕎麦屋で楽しく行い解散しました。本年も秋に開催します。大勢の参加をお待ちしています

問合せ先

〇四七-四三二-一九六四七(下倉)



母校の文化祭

三十八期生

須永英典

今年も恒例の文化祭が11月18日に行われました。昨年まで、AW別々に行っていた文化祭は今年AW合同で、職員室、生徒ホールなど新しく模様替えされた校舎内で一日中行われていました。今年は去年の地下道場ではなく裏庭、二階の教室を使用して、写真部恒例の写真の展示をはじめ、生徒会のカレー、整体、茶道などさまざまなものが出展していました。その他ERなどのビデオ放送などもして参加者のみんながとてにぎやかでした。文化祭最後のイベントとして、教員の名前を使用したビンゴ大会があり今年も盛大な文化祭が無事に終了しました。

文化祭を見学して



三十八期生

綾部 晃子

学校には、望星卒業後同窓会の会議で一度足を運んではいったものの、学校が改装されてから初めて訪れる機会となったのが文化祭です。どの様に改装されたのかという期待も持って、文化祭の会場へと向かいました。私が望

星にいた頃の文化祭は、生徒の参加が少なく開催時間も短かったので、こじんまりしたものでした。しかし、今回の文化祭では、学校全体を使った規模の大きいもので、開催時間も長くさらに生徒の参加も私たちの頃に比べたら多く、特に生徒と一緒に先生方も参加する展示が目立ち、楽しそうにしていたのがとても印象的でした。

まず望星に着いて一番に目を引いたのが、開放的な職員室でした。前の職員室の入りづらかったイメージが無くなっていて驚きました。そこから一步裏庭の模擬店会場に出てみれば、とてもおいしそうな匂いが漂い食欲を誘うお店がたくさん出ていました。また、2階の各教室では、今までの文化祭では見られなかった、というか見たことがない出し物が色々あり興味を引かれました。特に私の中では「無料整体センター」や「お茶会」など一風変わった出し物に興味を引かれました。さらに、先生の出し物では、彦坂先生の「紙のアート展」など素敵な展示を見ることが出来ました。そして、展示といえば毎年素晴らしい作品の数々を見せてくれる写真部では、成田校長先生や彦坂先生の作品、写真部の部員の作品を堪能させていただきました。今回の文化祭では、高校生の時に戻った様に本当に楽しませてくれました。今後多くの生徒がこの様な学校行事に参加し、先生と生徒が一体になって望星にしか出来ない望星らしい楽しくて素晴らしい、そして変わったおもしろい文化祭をこれからも続けて行ってほしいと強く願っています。楽しい一日がありました。ありがとうございました。



学校たより

◆ 三月に退職の先生方

放送教育コース・国語科の大日方弘一先生と平日教育コース・情報科の景晴正先生が三月末をもって定年退職される。大日方先生は昭和三十九年秋に付属高校(付属浦安高校の前身)に赴任、昭和五十一年四月から望星高校で国語I、古文等の放送講座を担当された。景先生は高輪台高校から平成三年望星高校に転勤され、パソコン、生活技術、クラブ活動でもパソコンを担当された。また、平日教育コース、数学科の杉村美和先生が三月末日をもって、依願退職される。

◆ 校舎一階の改装

昨年の春から夏にかけて、一昨年の二階の改装に引き続いて一階の改装が行われた。以前の放送教育コースの職員室がチャットホールに、平日教育コースの職員室が一部は講師室、一部が資料室兼印刷室に変わった。従来の生徒ホールは放送教育、平日教育両コースの職員室に変貌した。生徒ホールにはセルフサービスのダビングコーナー、また、パソコンも五台用意し、自由に使えるようになった。室内、廊下等の照明を一段と明るくした。健康管理室も約二倍の広さになり、同窓会事務局は進路相談室と共有することになった。同窓会総会の折にでも校舎見学がてらに足を運んでください。

◆ レポートを インターネットで配信

専任の先生方や事務職員にパソコンが設置され、今や在籍生徒や卒業生のデータは勿論のこと成績管理、出欠席、レポートの提出状況等の情報は一元的に管理されている。共有のデータは北海道校、静岡校、福岡校、熊本校でも利用されている。数年前には技能連携校でも利用できることを考えている。また、望星高校のホームページをご覧いただいた卒業生から「懐かしく学校の様子を見せてもらいました」との連絡をいただくことがあります。生徒は自宅のパソコンでレポートを取り出すことができます。また、放送講座も近いうちに配信できるように進められている。

ホームページ <http://www.bosei.tokai.ed.jp/>

◆ クラブの活躍

望星高校の技能連携校である茨城県古河市にある晃陽調理師専門学校の手部が関東地区の代表としてインターハイに「東海大学望星高校晃陽校」として出場。特に個人戦では平山君が堂々三位に入賞するという快挙を成し遂げた。また、定時制通信制の全国大会にバトミントン部、卓球部、柔道部が団体戦や個人戦に出場。部員の数は少ないながらも各クラブが活躍している。今後の活躍にご声援のほどを。

◆ 最後の卒業式

技能連携校の一つである愛知県名古屋市内にある精和学園ファッション専門学校が二月二十八日に最後の卒業生十六名を送り出す。

◆ 卒業生二万人を輩出

昭和三十四年開校の本校はこの三月で創立四十二年となった。この間多くの卒業生を輩出してきたがこの三月、卒業生二万名の大台にのる。これも卒業生一人ひとりの努力の結果が積み上げた数で一朝一夕でできる数ではない。歴史が育んだ数だけに感慨もひとしおである。

◆ 内木文英名誉校長

喜寿のお祝い

平成五年三月校長職を辞され、その後も国語表現を担当していただき、望星高校の教育にご尽力いただいた内木名誉校長の七十七歳・喜寿のお祝いが同窓会有志の呼び掛けで、十月二十日・新宿マイシティー・プチモンドで行われた。「これからもお元気で活躍ください」と出席者から声を掛けられた。

金子純郎 記

結婚おめでとう

菊地由香 (旧姓 高橋) 三十一期 A クラス
川端 薫 (旧姓 小林) 三十一期 A クラス

訃報

- 和田武文 (二十三期 A-3)
平成十三年七月二十七日交通事故で死去
- 武田ひでみ (二十一期 A-1)
平成十四年二月十二日 死去

平成12年度 決算報告

収入		支出	
前期繰越金	5,382,365円	連合会関係費	285,000円
新会員入会金	1,772,000	生徒会関係費	130,000
新会員年会費	570,000	通信費	526,215
總會時年会費	20,000	会報費	519,750
總會時寄付金	16,000	事務局費	209,728
局振込年会費	352,000	總會費	200,154
局振込寄付金	228,000	印刷費	232,050
銀行振込年会費	2,000	交通費	209,020
利子(郵便局)	286	会議費	54,741
利子(銀行)	615	卒業記念品費	360,437
定額定期利子	208,768	支部活動費	396,000
機器購入積立金	200,000	渉外費	91,242
		機器購入費	383,754
		(小計)	3,598,091
合計	8,752,034円	繰越金	5,153,943円
次期(平成13年度)	繰越金	合計	8,752,034円

平成13年度 予算案

収入		支出	
前期繰越金	5,153,943円	連合会関係費	290,000円
新会員入会金	1,693,000	生徒会関係費	130,000
新会員年会費	546,000	通信費	540,000
年会費	600,000	会報費	520,000
雑収入(利子等)	200,000	事務局費	200,000
		總會費	150,000
(今年度収入小計)	3,039,000	印刷費	240,000
		交通費	150,000
		会議費	70,000
		卒業記念品費	360,000
		支部活動費	259,000
		機器整備費	100,000
		渉外費	100,000
		(小計)	3,109,000
合計	8,192,943円	雑費(繰越金)	5,083,943
		合計	8,192,943円

上記の決算、厳正なる監査の結果、相違無い事を認めます。平成13年5月27日

監査役 清水 庄司(2期)、 監査役 原田 進(26期)

平成12年度総会・懇親会収支決算報告
平成12年6月4日 望星高校に於いて

収入 104,000円 支出 304,154円
会費 飲食費他

△200,154円(總會費より負担)

平成13年度役員選出

会長	下倉 良次(5期)
副会長	漆谷 憲康(6期) 原澤 純一(9期) 寺林 勝實(29期)
書記	各支部同窓会支部長 大井
会計	田中 美帆(28期) 九十寿美子(38期) 綾部 晃子(38期)
事務局次長	長南 友行(7期) 山口 淳子(27期)
事務局長	金谷 義孝(14期)
事務局長次長	榊 麻紀(34期)
「コンピュータ」	畠山 勝(16期)
「広報」	河野 義家(35期) 須永 英典(38期)
監査役	清水 庄司(2期) 原田 進(26期)